

看護学生のもつ妊娠期の看護の対象とケアのイメージ

富安俊子¹⁾ 服部佳代子¹⁾

Student nurses' images of pregnant women's care needs prior to the beginning of the maternal practicum

Toshiko Tomiyasu Kayoko Hattori

1) 活水女子大学看護学部

要 旨

母性看護学講義前の学生のもつ妊婦イメージの実態を調査し、妊娠期の看護の講義の基礎資料として検討した。A 大学看護学科3年生59名を対象に、妊娠期の看護の講義開始前に妊婦のイメージを図または文章での記述とそのイメージした対象に対する援助の記述を依頼した。妊婦イメージの内容分析を、1.母体の状態 2.胎児および胎児付属物 3.心理状態/母親役割 4.家族/役割関係 5.生活/社会環境の5項目に分類した。所属機関の倫理審査を受け、自由参加、成績と無関係、匿名性等を説明した。結果「つわりがきつい」などの母体の状態の記述の内容が出された。生活/社会環境での記述はなかった。講義内容・方法として既知を発展させるように工夫することが求められる。記述の少なかった生活/社会環境については、妊娠による生活/環境の変化や社会資源の視点を強化することが示唆された。対象を妊婦だけでなく、胎児や家族を意識できるような講義内容が必要である。母性看護学実習では、母児と家族、生活/社会環境も考えた実践が必要である。

キーワード：看護学生、妊婦イメージ、妊娠期のケア、ウェルネス看護診断

I 緒言

近年、少子・高齢化、核家族化の影響から、多くの看護学生が妊産褥婦や新生児と接するという体験が少ない¹⁾。以前に行った調査結果の中では²⁾、看護学生の妊婦に対するイメージから9つのカテゴリーを抽出した。看護学生は、学習前にもかかわらず、妊婦の外見からのイメージで、お腹が大き

いことは理解していたが、お腹の中の胎児や妊婦を取り巻く環境や家族についてのイメージの記述はなかった。また、妊婦を自分の身の回りでみかけないことや全くみることがない学生がいたことが明らかになった。2007年時のイメージ調査と比較して、現在の看護学生を取り巻く環境も変化し、様々な情報入手が簡単であることが推測さ

れる。妊婦が身近にいない状況の中においても、妊婦に関する様々な情報入手が簡単にできているのではないかと推測される。なぜなら、2011年の文部科学省情報通信白書における調査³⁾では、我が国のインターネットの利用率78.2%と推定されており、13歳から19歳の青年層で95.6%とされ、インターネットから様々な情報を入手していることが明らかにされていた。また、手軽なインターネットの接続端末は携帯電話であると言われている。身近に接する看護学生の携帯電話も100%近い状況で保有していることが明らかにされている⁴⁾。以上のことから看護学生もまた、様々な情報を簡単に入手することができていると推察される。看護学生は、入手した情報を実際の妊婦のイメージとして捉えているのか明らかにすることが必要である。

Boulding⁵⁾は、行動がイメージに依存していると述べ、また小林ら⁶⁾は、学生は、入学前から何らかのイメージを持っており、それは学習意欲にもつながることを記載している。具体的にイメージ化することは、学習に関連することからも、看護学生のもつイメージを明らかにすることは重要なことであると考えられる。

妊娠期の看護の講義前のレディネスとして看護学生のもつ妊婦イメージとその対象にどのようなケアをイメージしているのかの実態を明らかにすることが必要であると考える。母性看護学では、妊婦の全体像を捉えることが重要であると考えられる。ウェルネス看護診断の母性の看護過程⁷⁾から妊娠期の診断に必要な視点があることから、ウェルネス看護診断が、母性看護学の中では、妊婦の全体像を把握する上で、最低限必要な情報を分析するための看護過程であると考えている。そのため、現在の講義・

演習・実習の中では、ウェルネス看護診断の思考を用いた講義を実施している。そこで、講義前の看護学生が妊娠期の対象やその対象に対するケアのイメージ化をどのように自身の学習に結び付けことができるのかを考えた講義の構築が必要である。

今回、本研究において妊娠期の看護の講義前のレディネスとして看護学生のもつ妊婦イメージとその対象にどのようなケアをイメージしているのかの実態を明らかにすることを目的として調査を行い、妊娠期の対象をより理解し、対象へのケアを考える講義の基礎資料とするための検討を行った。

II 方法

1. 調査対象

A 大学看護学生3年生72名を調査対象とした。

2. 調査期間

調査期間は、2013年4-5月とした。

3. 調査方法

3年生72名(2年前期に臨床病態学を、後期に母性看護学概論を受講している)の学生に対して母性看護学各論の講義開始前に、集合調査で妊婦とその妊婦に対するケアのイメージについて、描写とその説明を箇条書きでの記載を依頼した。描写をしたくない学生については妊婦をイメージする言葉の記述を依頼し、また研究への参加や公表を望まない学生に対しては、記載しなくてもいいことを説明した。

母性看護学概論の講義内容は、女性のライフサイクルからみた看護の対象を理解する。母性の倫理的問題について考え、生命誕生を援助する看護者としての倫理観を養うなどを目的として、母性看護学を考えるきっかけとなる講義内容である。また、母

性看護学各論は、妊娠・分娩・産褥期と新生児期の看護と正常からの逸脱時の看護の内容である。

4. 分析方法

妊娠期の対象とケアの分析は、ウェルネス看護診断の母性の看護過程から妊娠期の診断に必要な視点の1.母体の状態 2.胎児および胎児付属物 3.心理状態/母親役割 4.家族/役割関係 5.生活/社会環境の5項目に分類した。筆者ら3名で分析を行った。分類については、何度も話し合いを行い、3名の意見の一致率70%以上であったものを項目ごとに分類し検討した。70%に満たないものは分類不能として、分析の対象から除いた。妊婦の描写については、今回は分析をせずに、講義用の印刷物に引用することについて学生の了解を得た。

5. 倫理的配慮

本研究は、活水女子大学の倫理審査委員会の承認（承認番号1047）を得て行った。

また、研究対象者には目的、方法、参加の自由、成績への関係がないこと、個人情報の保護等を強制力が働かないように口頭で説明し依頼した。また、公表する際にも個人情報の保護をすることを約束した。

6. 利益相反

本研究は、活水女子大学共同研究費を当てて実施し、費用を公正に使用した研究であり、本研究の公正さに影響を及ぼすような利害関係は一切生じていない。

Ⅲ 結果

1. 対象者

3年生72名中59名(有効回答率81.9%)であった。

2. 妊娠期の対象のイメージ

1) 母体の状態

表1は、母体の状態を分類した言葉を示した。

(1) 妊娠週数に応じた体の変化であるか

- ①バイタルサイン ②腹囲 ③子宮底長

表1 母体の状態

診断に必要な視点	学生の妊娠期の対象のイメージ内容	
妊娠週数に応じた体の変化であるか	腹囲	お腹がだんだん大きくなる、妊娠週数がふえるにつれお腹が大きくなる、妊娠線が出る
	体重	重そう、お腹が重そう、身体が重そう、プラス10kg、体重が増加する、体重も増えて顔がふっくらする
	乳房の変化	妊娠週数がふえるにつれ胸も大きくなる、胸が大きい
	マイナートラブル	つわり、つわりがきつい、悪心、つわりがひどそう、つわりの時は寝ている、腰痛、便秘になる、だるい お腹が大きい、大きなお腹、お腹が出ている
正常からの逸脱又は逸脱の可能性はないか	高血圧	高血圧
	貧血	貧血、めまい
	感染症	風疹などに注意する必要がある
	合併症	病気の危険性が高い、合併症がおこりやすい、問題が生じたとき子どもの命が自分かの選択に迫られる
妊娠経過に影響を及ぼす因子はどうか	年齢	14歳の母
体の変化に応じたセルフケア行動がとれているか	食事・栄養	栄養が偏りがちになる、食べ物の好みが変わる、味覚が変化する、すっぱいものがほしくなる、好き嫌いが変わる、鉄分をきちんと取る必要がある、食欲が変わる、よく食べている、たくさん食べる、食欲旺盛、栄養のバランスに気を付けている、健康なご飯を食べている、体にいい食べ物を食べていそう
	睡眠・休息	よく寝る、お昼寝してそう
	動作・運動・姿勢	よく歩いている、散歩、お腹に手をおき押さえている、妊婦は足元が見えない、階段などで下が見えない、背中にクッション、何をしても慎重、動作が遅い、自由に動けない、動きにくい、動くのがきつそう、体がだるそう、立ち上がるとききつそう、かがめない、階段の上り降りがきつそう、体を起こすのがきつそう、お腹を守るように行動する、お腹が大きくて歩きにくそう、ゆっくりあるく、ゆりかごみたいな椅子に座っていそう、背中は少しそっている、後ろにそっている、歩くときにお腹に手を当てている
	清潔	足の爪を切るのが大変
	衣服	楽な服、マタニティの服、ワンピース、靴下をはくのが難しい、お腹が大きいから靴下をはくのが大変そう、ラフな服装、ゆったりした服装、マタニティは着なくなってきた、締め付けない格好横かけのショルダーバックをかけている、靴はべったんこ、ヒールのない靴を履いている
	嗜好	酒タバコはいけない、禁酒禁煙

④体重 ⑤乳房の変化 ⑥マイナートラブルの6つの小項目であり、それぞれの項目について、バイタルサイン以外の項目の記載があった。①腹囲は、お腹がだんだん大きくなる、妊娠週数がふえるにつれお腹が大きくなる、妊娠線が出る。②体重は、重そう、お腹が重そう、身体が重そう、プラス10kg、体重が増加する、体重も増えて顔がふっくらする ③乳房の変化は、妊娠週数がふえるにつれ胸も大きくなる、胸が大きい ④マイナートラブルは、つわりがきつい、つわり、悪心、腰痛、便秘になる、だるい、つわりがひどそう、つわりの時は寝ているであった。また、項目に分類できにくいのが、関連があると判断したものは妊娠週数に応じた体の変化であるかの項目に分類した。

(2) 正常からの逸脱又は逸脱の可能性はないか

①高血圧 ②尿蛋白・尿糖 ③貧血 ④感染症 ⑤性器出血 ⑥合併症 ⑦妊娠37週未満の規則的な子宮収縮 ⑧妊娠37週未満の子宮頸管の開大の8つの項目があり、①高血圧は、高血圧②貧血は、貧血、めまい③感染症は、風疹などに注意する必要がある④合併症は、病気の危険性が高い、合併症がおこりやすい、問題が生じたとき子どもの命か自分かの選択に迫られるであった。また、性器出血、妊娠37週未満の規則的な子宮収縮そして、妊娠37週未満の子宮頸管の開大についての記載はなかった。

(3) 妊娠経過に影響を及ぼす因子はどうか

①年齢 ②非妊時のBMI ③月経歴・既往歴④妊娠・分娩歴⑤家族歴の5つの項目であったが、①年齢についての14歳の母の1項目の記載であった。

(4) 体の変化に応じたセルフケア行動がと

れているか

体の変化に応じたセルフケア行動がとれているかについては、①食事・栄養 ②排泄 ③睡眠・休息 ④動作・運動・姿勢 ⑤清潔 ⑥衣服 ⑦嗜好 ⑧性生活の8つの項目のうち排泄と性生活についての記載はなかった。①食事・栄養は、栄養が偏りがちになる、食べ物の好みが変わる、味覚が変化する、すっぱいものがほしくなる、好き嫌いが変わる、鉄分をきちんと取る必要がある、食欲が変わる、よく食べている、たくさん食べる、食欲旺盛、栄養のバランスに気を付けている、健康なご飯を食べている、体に良い食べ物を食べていそう ②睡眠・休息は、よく寝る、お昼寝してそう ③動作・運動・姿勢では、よく歩いている、散歩、お腹に手をおき押さえている、妊婦は足元が見えない、階段などで下が見えない、背中にクッション、何をするにも慎重、動作が遅い、自由に動けない、動きにくい、動くのがきつそう、体がだるそう、立ち上がるとききつそう、かがめない、階段の上り降りがきつそう、体を起こすのがきつそう、お腹を守るように行動する、お腹が大きくて歩きにくそう、ゆっくりあるく、ゆりかごみたいな椅子に座っていそう、背中は少しそっている、後ろにそっている、歩くときにお腹に手を当てている。③清潔は、足の爪を切るのが大変。④衣服は、楽な服、マタニティの服、ワンピース、靴下をはくのが難しい、お腹が大きいから靴下をはくのが大変そう、ラフな服装、ゆったりした服装、マタニティは着なくなってきた、衣服ではないが、締め付けない格好横かけのショルダーバックをかけている、靴はぺたんこ、ヒールのない靴を履いている⑤嗜好は、酒タバコはいけない、禁酒禁煙と分類した。

表2 心理状態・母親役割

診断に必要な視点		学生の妊娠期の対象のイメージ内容
心理状態はどうか	精神状態	不安、ふあふあ、表情が柔らかい、優しそうな顔、笑顔、幸せそうな笑顔、ニコニコしている、優しそう、目がやさしい、ゆったりとした時間が流れている、穏やか、おこらない、表情がほんわかしている、精神的に強くなる人と弱くなる人がいる、のほほんとしてそう、身体の少しの変化に気持ちが動揺しやすい、情緒不安定
	妊娠の受容	妊娠した時喜び、ママになることをうれしく思っている、幸せのオーラが出ている、幸せのオーラがある、幸せがあふれている、幸せを感じている、だれが見ても幸せそう、包み込んでいる感じ、ママの表情
	ボディイメージの変化	お腹を大事そうに手で覆っている、お腹に手を当てながら買い物に行きベビー服を眺めてにやにやしている片手をおなかに添えている、いつもお腹に手を当てている、椅子に座ってお腹を触っている、お腹を触っている、お腹をよくさする、腰に手をあてている
母親としての役割は取れているか	児の受容	お腹に手を当てて赤ちゃんに話しかけている、大きくなったお腹を大事になでて胎児に声をかけている、お腹を幸せそうにさすっている、なでている、お腹に話しかけている、目は子どもができてうれしい感じ、元気な赤ちゃんが生まれてほしいと願う、愛情が注がれている感じ、赤ちゃん、子どものことを考えている、笑って赤ちゃんに話しかけている、男の子?or女の子?
	受診行動	定期検診
	出産準備行動	産まれてくるのを楽しみに待っている、赤ちゃんが生まれるのを楽しみにしている、待ち遠しい、生まれてくる子がどんな子か楽しみ、元気に生まれてくるのか不安がある
	育児準備行動	編み物とゆりかごはセット、子どもの名前や生まれたときのことを考えている、編み物をしていそう(赤ちゃんの手袋帽子)、暇な時間で編み物していそう、ベビー用品をたくさん買う、生まれてくる前からやたらと物を買いきろえる、育児関係の教室に通っている
心理・役割取得に影響する因子はどうか		旦那さんとのきずなが深まる、夫婦仲がいい、旦那さんと仲良し、夫婦がほっこりした感じ、旦那がうざくなりそう

2) 心理状態・母親役割

心理状態・母親役割については表2に示した。

(1) 心理状態はどうか

①精神状態は、不安、ふあふあ、表情が柔らかい、優しそうな顔、笑顔、幸せそうな笑顔、ニコニコしている、優しそう、目がやさしい、ゆったりとした時間が流れている、穏やか、おこらない、表情がほんわかしている、精神的に強くなる人と弱くなる人がいる、のほほんとしてそう、身体の少しの変化に気持ちが動揺しやすい、情緒不安定。②妊娠の受容は、妊娠した時喜び、ママになることをうれしく思っている、幸せのオーラが出ている、幸せのオーラがある、幸せがあふれている、幸せを感じている、だれが見ても幸せそう、包み込んでいる感じ、ママの表情。③ボディイメージの変化では、お腹を大事そうに手で覆っている、お腹に手を当てながら買い物に行きベビー服を眺めてにやにやしている、片手をおなかに添えている、いつもお腹に手を当

ている、椅子に座ってお腹を触っている、お腹を触っている、お腹をよくさする、腰に手をあてているで、ボディイメージの変化や不安ストレスの対処行動について当てはまるものはみられなかった。

(2) 母親としての役割は取れているか

①児の受容は、お腹に手を当てて赤ちゃんに話しかけている、大きくなったお腹を大事になでて胎児に声をかけている、お腹を幸せそうにさすっている、なでている、お腹に話しかけている、目は子どもができてうれしい感じ、元気な赤ちゃんが生まれてほしいと願う、愛情が注がれている感じ、赤ちゃん、子どものことを考えている、笑って赤ちゃんに話しかけている、男の子?or女の子?。②受診行動は、定期検診はあったが、母子健康手帳の記入に関しての記載はなかった。③出産準備行動は、身体的準備、心の準備、物品の準備、バースプランの項目がある中で、産まれてくるのを楽しみに待っている、赤ちゃんが生まれるのを楽しみにしている、待ち遠しい、生まれて

表3 胎児および付属物の状態 家族/役割関係 生活/社会環境

診断に必要な視点			学生の妊娠期の対象のイメージ内容
胎児および付属物の状態	胎児の数と胎位・胎向・胎勢はどうか	胎児の数	お腹に赤ちゃんがいる、2つの命、2人分
	胎児の発育は妊娠週数に応じているか		子どもができてからの幸せな家庭を想像する、希望
家族/役割関係			夫に様々なことをしてもらえるように要求している、実家に帰る、実家に帰っている
生活/社会環境			

くる子がどんな子か楽しみ、元気に生まれてくるのか不安があった。④育児準備行動は、物品の準備、育児技術、乳房の準備の中で、編み物とゆりかごはセット、子どもの名前や生まれたときのことを考えている、編み物をしていそう（赤ちゃんの手袋帽子）、暇な時間で編み物していそう、ベビー用品をたくさん買う、生まれてくる前からやたらと物を買ってそろえる、育児関係の教室に通っているであった。

(2) 心理・役割取得に影響する因子はどうか

旦那さんとのきずなが深まる、夫婦仲がいい、旦那さんと仲良し、夫婦がほっこりした感じ、旦那がうざくなりそうであった。

3) 胎児および胎児付属物

胎児および胎児付属物、家族/役割関係、生活/社会環境については表3に示した。

(1) 胎児の数と胎位・胎向・胎勢はどうか

①胎児の数は、お腹に赤ちゃんがいる、2つの命、2人分。②胎位・胎向・胎勢の記載はなかった。

(2) 胎児の発育は妊娠週数に応じているか 子どもができてからの幸せな家庭を想像する、希望であった。

(3) 胎児の健康状態はどうかや (4) 胎児付属物の状態はどうかについての記載はなかった。

4) 家族/役割関係

(1) 父親としての役割はどうか。(2) 家族の受け入れ態勢はどうか。(3) 家族の役割調整はどうかについて該当する記載はな

かった。夫に様々なことをしてもらえるように要求している、実家に帰る、実家に帰っているについては、家族/役割関係の項目に分類した。

5) 生活/社会環境

全く該当する言葉はなかった。

3. 妊娠期の対象へのケアのイメージ

1) 母体の状態のケア

母体の状態のケアについては表4に示した。(1) 妊娠週数に応じた体の変化であるか

①体重は、適正体重を維持する、適切な体重を知らせる。②マイナートラブルは、つわりの対処方法、軽減するようなアドバイスであった。項目には該当しないが、妊娠週数に応じた体の変化であるかについては、触診・視診・聴診により観察、妊婦健診、検診、妊婦の体調の変化を観察するというケアの内容であった。

(2) 正常からの逸脱又は逸脱の可能性はないか

①合併症は、合併症の予防②感染症は、感染予防、感染リスクなど身体の変化の説明、風疹の予防接種を受けているか確認するであった。

(3) 妊娠経過に影響を及ぼす因子はどうか

身体的症状が現れないように体調管理に注意するようにする。

(4) 体の変化に応じたセルフケア行動がとれているか

①食事・栄養は、身体によい食べ物を紹介する、栄養のバランスを考えた食事、栄

表4 母体の状態のケア

診断に必要な視点	学生の考えるケアのイメージ内容	
妊娠週数に応じた体の変化であるか	体重	適正体重を維持する、適切な体重を知らせる
	マイナートラブル	つわりの対処方法、軽減するようなアドバイス
正常からの逸脱又は逸脱の可能性はないか	合併症	合併症の予防
	感染症	感染予防、感染リスクなど身体の変化の説明、風疹の予防接種を受けているか確認する
妊娠経過に影響を及ぼす因子はどうか		身体的症状が現れないように体調管理に注意するようにする
体の変化に応じたセルフケア行動がとれているか	食事・栄養	身体によい食べ物を紹介する、栄養のバランスを考えた食事、栄養のあるご飯を食べさせる、栄養バランスが取れているか調査しバランスの良い食事を食べるように促す、栄養管理、栄養指導、食事指導、食事や体重のコントロールの指導、栄養管理が行えるように説明して日をおいて確認する、食べ過ぎない、風邪や病気を予防するため栄養バランスのとれた食事や予防効果のある食事を提供する、栄養が偏らないように食事指導をする
	睡眠・休息	疲れたときは少し休み疲れをためないようにする、睡眠はしっかりとるように促す、疲れることはさせない、きつくなったら休みながら歩く
	動作・運動・姿勢	転倒を予防するためにヒールや歩きにくい格好はしないように声掛け指導を行う、ヒールなど高さがある靴を履かないように言う、重たいものは持たせない、重いものを持たせないようにする、荷物を持ってあげる、重たい荷物はできるだけ持たないようにする、バスや電車で席を譲る、坂や階段を上るときは手をかしたりする、妊婦さんがものを落としたときは拾ってあげる、運動指導、激しい運動は避けるように説明する、適度に運動する、立ち姿勢の指導、ストレッチをする、身体に負担をかけない動作を指導する、運動制限などについて説明する、運動など一緒に頑張る、腰痛を軽減する体操やストレッチ方法を指導、腹帯をまいて、腰痛を予防することを促す、骨盤体操、腰部のマッサージ、転ばないように呼びかけて注意する、お腹が大きいと足元が見えにくいので歩く時には気を付ける、足がむくんでいる場合適切なマッサージを行う、適度な運動をする、転倒防止予防、階段など危険なところでは転倒しないように等
	衣服	無理なく楽な服を着るように呼びかける、身体特に腹部を締め付けないように言う
	嗜好	受動喫煙をしないように煙草を控えてもらうこと、飲酒、喫煙防止、禁酒禁煙、禁酒の指導

養のあるご飯を食べさせる、栄養バランスが取れているか調査しバランスの良い食事を食べるように促す、栄養管理、栄養指導、食事指導、食事や体重のコントロールの指導、栄養管理が行えるように説明して日をおいて確認する、食べ過ぎない、風邪や病気を予防するため栄養バランスのとれた食事や予防効果のある食事を提供する、栄養が偏らないように食事指導をする。②睡眠・休息は、疲れたときは少し休み疲れをためないようにする、睡眠はしっかりとるように促す、疲れることはさせない、きつくなったら休みながら歩く。③動作・運動・姿勢は、転倒を予防するためにヒールや歩きにくい格好はしないように声掛け指導を行う、ヒールなど高さがある靴を履かないように言う、重たいものは持たせない、重いものを持たせないようにする、荷物を持ってあげる、重たい荷物はできるだけ持たないようにする、バスや電車で席を譲る、坂や階段を上るときは手をかしたりす

る、妊婦さんがものを落としたときは拾ってあげる、運動指導、激しい運動は避けるように説明する、適度に運動する、立ち姿勢の指導、ストレッチをする、身体に負担をかけない動作を指導する、運動制限などについて説明する、運動など一緒に頑張る、腰痛を軽減する体操やストレッチ方法を指導、腹帯をまいて、腰痛を予防することを促す、骨盤体操、腰部のマッサージ、転ばないように呼びかけて注意する、お腹が大きいと足元が見えにくいので歩く時には気を付ける、足がむくんでいる場合適切なマッサージを行う、適度な運動をする、転倒防止予防、階段など危険なところでは転倒しないように等であった。④衣服は、無理なく楽な服を着るように呼びかける、身体、特に腹部を締め付けないように言う。⑤嗜好は、受動喫煙をしないように煙草を控えてもらうこと、飲酒、喫煙防止、禁酒禁煙、禁酒の指導の記載があった。

表5 心理状態・母親役割のケア

診断に必要な視点		学生の考えるケアのイメージ内容
心理状態はどうか	精神状態	心理的精神的ケア、心のケア、イライラしやすいので精神的なケアが必要、妊婦の悩み事を聞いてあげる、
	妊娠の受容	赤ちゃんができたことを共に喜ぶ
	不安やストレスへの対処行動	ストレスを最小限に抑えるためにも相談など中身を聞き取り除いていく必要がある、ストレスをためないように配慮する、過度のストレスは避ける、妊娠・出産に対する不安を和らげるケア、不安な話を聞く、不安や悩みを取り除く、解消する
母親としての役割は取れているか	受診行動	出産や育児など不安に感じていることがあればカウンセリングをする、出産に対する不安があれば相談を受ける、緊急時の連絡先を教える、緊急に備えた説明をしておく、緊急時の対応、急変に備えた対応ができるように指導する、最悪の事態を考えてその場合どうするか考えておく、お腹が痛くなった時の対応
	出産準備行動	出産への心配、精神的ケア、出産についての教育・説明、産むときの息の練習、陣痛時の対応を教える、出産時の注意点、出産に対する不安の軽減、出産に対する不安などを聞く、出産に対する不安の軽減、出産前は歩くように促す、そしたら胎児が子宮口へ降りてくる、廊下などを歩いてできるだけ子供を下降させ分娩しやすい状態にする、妊娠出産に関する教育、妊婦体操、母親学級や両親学級などの参加を促し教育、母親になるための準備、出産するにあたって準備すべきものを教える、妊娠について（出産について）教えてあげる、出産の準備をサポートする、妊婦が安心して出産ができるように技術だけでなく、身体的、精神的、社会的に支えることが必要
	育児準備行動	出産後の育児について一緒に学び情報を共有する、不安やわからないことは表出してもらい解決することで育児不安を少しでも減らす、育児に向けての説明、生まれた後のことを考えたことや環境の準備、赤ちゃんの観察のポイントを教える、生まれてから必要なことをアドバイスする、育児指導、お風呂やミルクなどの指導、ミルクの作り方、妊娠中の体の変化についての説明、入浴方法の指導、赤ちゃんの世話の仕方を教える（沐浴、母乳の与え方など）
		健診などの情報提供、検診回数や日数を教える、赤ちゃんにより曲を聴かせる、産前産後の過ごし方を教える、妊婦用のグッズの紹介
心理・役割取得に影響する因子はどうか		妊婦さんが不安にならないよう悩みなど相談にのる、出産についての情報提供、夫婦で協力することの大切さを説明する 母体が健康であるための知識、知識の提供、妊婦さんの話を聞く不安の軽減（マタニティブルー、出産後のうつなど）、音楽を聞かせる、疑問や体調の変動について気軽に相談できる雰囲気づくり

2) 心理状態 / 母親役割

心理状態 / 母親役割について、表5に示した。

(1) 心理状態はどうか

①精神状態は、心理的精神的ケア、心のケア、イライラしやすいので精神的なケアが必要、妊婦の悩み事を聞いてあげる。②妊娠の受容は、赤ちゃんができたことを共に喜ぶ。③不安やストレスへの対処行動は、ストレスを最小限に抑えるためにも相談など中身を聞き取り除いていく必要がある、ストレスをためないように配慮する、過度のストレスは避ける、妊娠・出産に対する不安を和らげるケア、不安な話を聞く、不安や悩みを取り除く、解消する。

(2) 母親としての役割は取れているか

①受診行動は、出産や育児など不安に感じていることがあればカウンセリングをする、出産に対する不安があれば相談を受ける、緊急時の連絡先を教える、緊急に備え

た説明をしておく、緊急時の対応、急変に備えた対応ができるように指導する、最悪の事態を考えてその場合どうするか考えておく、お腹が痛くなった時の対応。②出産準備行動は、出産への心配、精神的ケア、出産についての教育・説明、産むときの息の練習、陣痛時の対応を教える、出産時の注意点、出産に対する不安の軽減、出産に対する不安などを聞く、出産に対する不安の軽減、出産前は歩くように促す、そしたら胎児が子宮口へ降りてくる、廊下などを歩いてできるだけ子供を下降させ分娩しやすい状態にする、妊娠出産に関する教育、妊婦体操、母親学級や両親学級などの参加を促し教育、母親になるための準備、出産するにあたって準備すべきものを教える、妊娠について（出産について）教えてあげる、出産の準備をサポートする、妊婦が安心して出産ができるように技術だけでなく、身体的、精神的、社会的に支えること

表6 胎児および付属物の状態 家族/役割関係 生活/社会環境のケア

	診断に必要な視点	学生の考えるケアのイメージ内容
胎児および付属物の状態		
家族/役割関係	父親としての役割行動はどうか	夫が妊婦をささえる
	家族の受け入れ態勢はどうか	兄弟の事への心配、精神的ケア、周りが妊婦をいたわり助ける
	家族の役割調整はどうか	パートナーの協力を求める、妊婦にすべて家事を任せない、妊婦だけでなく家族のサポートも必要、家族からしっかりサポートしてもらえるようにする、家事の手伝いそばに寄り添ってもらい、夫や家族などの協力を妊婦の負担にならないように家事の協力をしてもらえるように教える、旦那さんや他の家族にも協力してもらえるようにする、家族看護
生活/社会環境	社会資源・諸制度の情報把握と活用状況はどうか	保健所との連携を取る、社会資源の紹介、社会資源の活用、母親教室、ママさん教室を紹介する、育児についての教室の提供
	サポート体制に関する情報把握と活用状況	子育て教室など社会資源の提供をする、地域のイベントがあることを紹介、育児に対して不安があれば、母親同士など相談しやすい環境をつくる
	勤労状況はどうか	年齢や仕事に沿った1人1人のケアを考えておく、会を作る

が必要。③育児準備行動は、出産後の育児について一緒に学び、情報を共有する、不安やわからないことは表出してもらい、解決することで育児不安を少しでも減らす、育児に向けての説明、生まれた後のことを考えたところや環境の準備、赤ちゃんの観察のポイントを教える、生まれてから必要なことをアドバイスする、育児指導、お風呂やミルクなどの指導、ミルクの作り方、妊娠中の体の変化についての説明、入浴方法の指導、赤ちゃんの世話の仕方を教える（沐浴、母乳の与え方など）であった。

(3) 心理・役割取得に影響する因子はどうか

妊婦さんが不安にならないよう悩みなど相談にのり、出産についての情報提供、夫婦で協力することの大切さを説明するや母体が健康であるための知識、知識の提供、妊婦さんの話を聞く不安の軽減（マタニティブルー、出産後のうつなど）、音楽を聞かせる、疑問や体調の変動について気軽に相談できる雰囲気づくりであった。

3) 胎児および胎児付属物

胎児および胎児付属物、家族/役割関係、生活/社会環境については表6に示した。

(1) 胎児および付属物の状態

ケア内容はなかった。

4) 家族/役割関係

(1) 父親としての役割行動はどうかは、夫が妊婦をささえる (2) 家族の受け入れ態勢はどうか 兄弟の事への心配、精神的ケア、周りが妊婦をいたわり助ける (3) 家族の役割調整はどうかパートナーの協力を求める、妊婦にすべて家事を任せない、妊婦だけでなく家族のサポートも必要、家族からしっかりサポートしてもらえるようにする、家事の手伝いそばに寄り添ってもらい、夫や家族などの協力を妊婦の負担にならないように家事の協力をしてもらえるように教える、旦那さんや他の家族にも協力してもらえるようにする、家族看護であった。

5) 生活/社会環境

(1) 社会資源・諸制度の情報把握と活用状況はどうかは、保健所との連携を取る、社会資源の紹介、社会資源の活用、母親教室、ママさん教室を紹介する、育児についての教室の提供。(2) サポート体制に関する情報把握と活用状況は、子育て教室など社会資源の提供をする、地域のイベントがある

ことを紹介、育児に対して不安があれば、母親同士など相談しやすい環境をつくるであった。(3) 勤労状況はどうかでは、年齢や仕事に沿った1人1人のケアを考えておく、会を作るであった。

IV 考察

1. 妊婦のイメージ

本調査の結果から、多くの学生は、妊婦のイメージについては、母体の状態と心理状態・母親役割に関する言葉の記載が多かった。Boulding⁵⁾は、行動がイメージに依存する。そして、ある人の過去の経験の総合的結果としてイメージが出来上がっていると記述している。つまり、母体の状態と心理状態・母親役割は、学生自身の過去の何らかの経験に基づいたイメージではないかと推定される。つまり、学生が自分の母親と接していく中で経験した感情や自分の考え方に応じた母親役割モデルを取り込む経験などからイメージしているのではないと思われる。母体の状態については、腹囲、体重、乳房の変化そしてマイナートラブルに分類できた。このことは、以前の調査²⁾で抽出したカテゴリーの「外見からのイメージ」として分類したサブカテゴリーの体型と同様であった。学生は、外見にのみ注目し、子宮内の胎児についてはイメージができにくかった。

マイナートラブルは、つわり、つわりがきついや腰痛などの記載があった。また、体の変化に応じたセルフケア行動がとれているのかは、食事・栄養、動作・運動・姿勢、衣服の項目についての記載がみられた。従って、母体の状態については、学生にはある程度イメージができていると推察された。

また、妊婦の心理状態 / 母親役割の心理

状態はどうかでは、精神状態、妊娠の受容やボディイメージの変化、母親としての役割は取れているかでは、児の受容、出産準備行動や育児準備行動の記載は多くあった。母体の状態と同様に、学生にイメージ化されていたと推察された。出産準備行動や育児準備行動には、胎児、出生後の育児指導、赤ちゃんの世話などのケアがあげられていることから、妊婦のイメージでは胎児の記載はなかったが、イメージができていないわけではないと考える。従って、今後は、学生が思っていたり、イメージしたり、考えていることが言語化できるような取り組みが必要であると考えます。

胎児および付属物については、妊婦イコール胎児および胎児付属物という関連づけが脆弱なのではないかと考えられ、妊婦からのイメージ化では制限されたのではないかと考える。

家族 / 役割関係や生活 / 社会環境については、ほとんど記載がみられなかった。胎児や家族を意識できていないことが明らかになった。そのために、対象を妊婦だけでなく、胎児や家族を意識できるような内容が必要である。妊婦とパートナーを常に意識するような、家族看護学との関連からの授業の構築が必要である。しかし、今回の調査は、妊婦のイメージであったことも胎児をイメージ化できなかった理由なのかもしれない。今後は妊娠期の対象とし、妊婦と胎児というような具体的な言葉での調査が必要だったのではないかと考える。母性看護学各論の講義の中で妊娠期の対象つまり妊婦をイメージする時に、胎児を考慮することができるような妊娠期の講義の構築を考える必要がある。

家族 / 役割、社会制度や社会環境を妊婦と関連づけることが難しかったのかもしれ

ない。それにより、妊婦を取り巻く家族／役割、生活／社会環境にまで及ばなかったと考える。今後は、演習などで、妊婦疑似体験の経験とともに、妊婦を取り巻く家族／役割、生活／社会環境について考えていくことも重要である。

妊婦疑似体験は、妊娠期の対象の理解を促すうえでも有効であることを示す研究^{1,8,9)}がなされている。その中で、二瓶ら¹⁾は、妊婦疑似体験は、学生の抱くイメージを固定化させ、身体ばかりでなく、その状態が続くことによっておこる精神的な影響にも近づくことができると述べている。これらのことから、体の変化に応じたセルフケア行動や妊婦の心理状態／母親役割にまで考えることができたのかもしれない。また藤岡¹⁰⁾は、ほとんどあらゆることについてのイメージが、私たちの心の中にはある。これまで経験してきたこと、知識として与えられたこと、そうしたことが歴史的に蓄積されてきている。人間は心身一如の存在だから、いくらかの身体的イメージを伴わないような精神的イメージを思い出すのは困難であるし、逆に、いくらかの精神的イメージを伴わない身体的イメージを思い出すのは困難であると述べている。したがって、今回の調査の中でも、学生は心理状態／母親役割についての記述は多く見られたと考える。妊婦を心身両面からとらえていくことを継続していくことができるようになることが必要になってくる。そのためには、母性看護学各論時だけではなく、母性看護学概論でも、心身両面を使用したロールプレイや妊婦疑似体験の実施等を駆使し、妊婦と胎児を同時にイメージできるようにしていくことも一教育方法であると考えられる。

2. 妊娠期のケアのイメージ

母体の状態のケアでは、体の変化に応じ

たセルフケア行動がとれているかについてと食事・栄養や動作・運動・姿勢の項目については、学生は様々なケアや指導の内容を表現し記載していた。妊婦のイメージで、妊娠週数に応じた体の変化での腹囲、体重、マイナートラブルや体の変化に応じたセルフケア行動がとれているかでの食事・栄養、動作・運動・姿勢に記載があった。また、お腹が大きくなる、つわりやつわりがきつい、足元が見えないなどのイメージがあった。このことから、食事・栄養や動作・運動・姿勢と関連が容易であったのかもしれないと考える。衣服については、妊婦のイメージは、様々な記載があったが、ケアでは2つの記載のみであった。妊婦ではイメージできていたが、ケアと関連させるのが難しいものもあった。イメージをケアに関連付けることができるように、そして根拠を基にしたケアの内容を考えることができるようにしなければならない。そのため、今後は、講義内容・方法として既知を発展させるように工夫することが求められる。

心理状態・母親役割は、母親としての役割は取れているかでは、特に受診行動、出産準備行動と育児準備行動に関して様々なケア内容の記載があった。また、指導という言葉を使用したケア内容が多く認められた。妊婦については、ケアというより指導が必要であることが講義前に理解できていたかもしれない。木下ら¹¹⁾は、母性看護学学習途上にある学生のもつすてきな妊婦さんのイメージは、学生自らの生活感覚や学習状況から生まれ出たものと述べている。本調査においても、木下らと同様の結果であった。現在、学生の持っているケアを活かし、継続して考えることができるようにしていく。そして、個別性のあるケアを考えることができるように、演習内容の構築を行い、

実習に連動できるようにする必要がある。

胎児および胎児付属物の状態については、妊婦のイメージについても、胎児についての記載は少なく、ケアについては関連して考えることができなかつたのか記載がなかつた。講義の中で、胎児の発育は妊娠週数に依拠しているか、胎児の健康状態はどうか、そして胎児付属物の状態はどうかについての講義の進度とともに、具体的な内容を取り入れていくことで、胎児のイメージ化ができるようにしなければならない。例えば、演習の具体的内容では、レオポルド触診法を実施し、腹囲や子宮底の測定することと、外来実習で、実際の妊婦と接していくことで、胎児や胎児付属物までを考えることができるようにしていくことも必要になる。また、今後は、実習終了後に、妊娠期のケアの振り返りを行い、学生がどのように妊娠期のケアを実践・考察できたかは、実習終了後での調査も必要になる。

家族／役割関係や生活／社会環境についての記載が少なかつた。家族の役割調整はどうかという観点から、夫、パートナーの存在については、記載が見られた。常に家族や生活／社会環境を学生自身が意識しておくことはケア計画を立てる上でも必要なことである。妊婦や妊娠期のケアを講義、演習、実習を通して、母児と母子を取り巻く環境、つまり妊娠による生活／環境の変化や社会資源の視点を強化することが示唆された。母性看護学実習では、母児と家族、生活／社会環境も考えた実践が必要である。

V 結論

本研究において、看護学生のもつ妊婦と妊娠期のケアについての記述を求めた。その結果

1. 妊婦のイメージでは、母体の状態や心理状態・母親役割の記載はあつた。しかし、胎児および付属物、家族／役割関係や生活／社会環境は、ほとんど記載がみられなかつた。
2. 妊娠による生活／環境の変化や社会資源の視点を強化することが示唆された。対象を妊婦だけでなく、胎児や家族を意識できるような講義内容が必要である。
3. 妊娠期のケアについては、胎児および胎児付属物の状態の記載はなかつた。
4. 母性看護学実習では、母児と家族、生活／社会環境も考えた実践が必要である。

なお、本論文は、活水女子大学の倫理審査委員会に申請し、承認（承認番号 1047）を得たテーマ「看護学生のレポート分析による妊娠期の対象と看護のイメージおよび分娩期の対象と看護の理解の実態調査」の一部である。

また、第 54 回日本母性衛生学会学術集会において一部を発表した。

謝辞

本研究の調査にご参加いただいた看護学生の皆様に深く感謝いたします。また、実態調査の分析およびまとめにご協力いただいた活水女子大学看護学科の三浦沙織先生に深く感謝いたします。

引用・参考文献

- 1) 二瓶良子, 篁伊久美子, 小笹由香, 他. 妊婦疑似体験の有効性に関する検討, 東邦大学医療短期大学紀要, 2000, no.14, p.12-21.
- 2) 梶原恭子, 富安俊子, 田中千絵, 他. 看護学生の妊婦に対するイメージの検討.

- 母性衛生 . 2007, vol. 47 , no.4, p.563-570.
- 3) www.mext.go.jp/component/a_menu/education/.../1341308_02.pdf 文部科学省アンケート調査 . 2014.5.18.
- 4) 前川 千晶, 池田 苗子, 藤岡 奈美 . 一人暮らしする大学生 の携帯電話使用実態と携帯電話を介した親子コミュニケーション . 母性衛生 . 2013, vol. 54, no. 3, p.238.
- 5) Boulding K.E. (大川信明約). ザ・イメージ — 生活の知恵 社会の知恵 — 東京, 誠信書房, 1979. ISBN 4-414-01207-4.
- 6) 小林 淳子, 小山田 信子, 塩 飽仁, 他, 入学から「基礎看護 I」実習後までの病院, 患者, 看護婦, 看護のイメージの変化 . 東北大学医療技術短期大学部紀要 . 1993, vol.2, no. 1, p . 31-42.
- 7) 太田操編著 . ウェルネス診断にもとづく母性看護過程 . 医歯薬出版株式会社, 2009, p . 30-39. ISBN 978-4-263-23534-8.
- 8) 藤本 栄子 . 妊婦理解のための授業の工夫 - 擬似妊婦体験学習と妊婦参加によるグループ討議の効果 . 聖隷クリストファー看護大学紀要.1997, vol. 4, no. 4, p . 51-65.
- 9) 安藤 良恵 . 母性看護学学内演習効果 (第 2 報) 看護学生の背景と母性に対する興味 . ペリネイタルケア . 2000, vol.19, no. 12, p . 1264-1268.
- 10) 藤岡 喜愛 . イメージと人間 精神人類学の視野 . 日本放送出版協会, 1984, p . 62-69. ISBN 4-14-001213-7.
- 11) 木下 照子, 神田 聖子 . 看護大学生がイメージする「すてきな妊婦」に関する研究, 新見公立大学紀要, 2012, vol. 33, p . 99-102.

連絡先

富安 俊子

〒 856-0835

長崎県大村市久原 2 丁目 1246-3

活水女子大学 看護学部

電話 : 0957 (27) 3005

FAX : 0957 (27) 3007

E-mail : tomiyau@kwassui.ac.jp

Student nurses' images of pregnant women's care needs prior to the beginning of the maternal practicum

Abstract

We studied the actual pregnant women images held by students prior to a maternity nursing lecture, with the basic data in the lecture being nursing during pregnancy. The subjects comprised 59 third-year students at the School of Nursing in A University, and prior to starting the lecture on nursing during pregnancy, a description presenting pregnant women images in the form of figures or text was requested, as well as a description providing assistance to the subjects who held those image. In a content analysis of student's images of pregnant women, they were categorized into 5 items: 1. maternal condition; 2. fetus and fetal appendages; 3. psychological state/maternal role; 4. family/role relationships; and 5. lifestyle/social environment. An ethical review was conducted by the parent organization, and points regarding free participation, no relationship with results, and anonymity, etc., were explained.

Written content about the maternal state was presented, such as "morning sickness was difficult". There was no mention of "lifestyle/social environment". The content and method used for the lecture involved seeking to improvise in such a way that the students' knowledge on this subject increased. Regarding "lifestyle/social environment", of which there was little mention, changes in lifestyle/social environment due to pregnancy, and strengthening of societal resources were indicated. It is necessary to have content in which not only pregnant women are the subjects, but it is possible to be aware of the fetus and family as well. In practical training for maternity nursing, it is necessary to conduct training that considers the mother-and-child relationship with the family, as well as the lifestyle/social environment.

Keywords: nursing student, pregnant women images, pregnant women's care, wellness nursing diagnosis